

令和6年度
府民利用施設のあり方検証結果報告

令和6年9月

京 都 府

目 次

1	はじめに	1
2	検証の基本的な考え方	2
3	検証の結果	4

(資料) 府民利用施設調書

1 はじめに

(府民利用施設)

府民利用施設（公の施設等）は、主に府民福祉を増進する目的をもってその利用に供するための施設のことをいい、京都府では都市公園や公営住宅といった基盤施設をはじめ、文化教育施設、スポーツ・レクリエーション施設、福祉医療施設などを設置している。

(これまでの取組)

府民利用施設の運営については、民間事業者等の能力や経験を活用することにより、府民サービスの向上と効果的かつ効率的な管理運営を目指すことを目的に、平成18年度から指定管理者制度を導入（令和6年4月現在：150施設）しており、施設利用者の増加や管理運営費の節減など一定の成果が認められるところである。

また、「府民満足最大化プラン」（平成21年3月策定）では、府民利用施設について、「NPO・民間企業・市町村等を含めた最適な運営主体による管理や協働運営の検討」をはじめ、「府民ニーズ・公的必要性に基づく抜本的見直し」などを行うこととしていたことから、府民満足の最大化に向け資金・施設等の限られた京都府の財産を有効に活用することを目的に、当プランに基づき、平成23年度から指定管理者及び施設活用団体（以下「指定管理者等」という。）の選定替え等に併せ、施設のあり方について今日的な視点から検証を行ってきた。

<検証実績>

23年度	指定管理者等の選定替えを行う施設	37施設
24年度	指定管理者等の選定替えを行う施設	7施設
	直営施設	2施設
25年度	指定管理者等の選定替えを行う施設	5施設
26年度	指定管理者等の選定替えを行う施設	13施設
	直営施設	1施設
27年度	指定管理者等の選定替えを行う施設	3施設
	直営施設	2施設
28年度	指定管理者等の選定替えを行う施設	16施設
29年度	指定管理者等の選定替えを行う施設	8施設
30年度	指定管理者等の選定替えを行う施設	4施設
	直営施設	1施設
R元年度	指定管理者等の選定替えを行う施設	5施設
R3年度	指定管理者等の選定替えを行う施設	21施設
R4年度	指定管理者等の選定替えを行う施設	5施設

(令和6年度の取組)

「府民満足最大化プラン」、「府民満足最大化・京都力結集プラン」、「行財政改革プラン」の後継である「京都府行財政運営方針」（令和6年3月策定）では、府民利用施設について、「府民サービスの向上や指定管理者制度の活用も含め、より効果的な施設の利活用を進める。また、施設の利用実態や近隣の競合施設の現状等も踏まえ、今日的な視点により定期的にあり方を検証する」こととしており、社会経済情勢が変化する中、これまで以上に府民満足を高め、多様で質の高い、利用者により魅力のある府民サービスを提供していくため、引き続き、府民利用施設のあり方について今日的な検証を行い、施設運営の改善へと繋げていく必要がある。

このため、令和6年度については、以前に検証を実施した施設のうち、令和7年度に指定管理者等の選定替えを行う6施設について、検証を実施した。

2 検証の基本的な考え方

(1) 検証の概要

今回の検証では、検証対象施設について、近年の施設の利用状況、府の財政負担の状況、施設改修の予定等の施設の現状について、後述する「公共性」、「有効性」及び「効率性」の視点から検証するとともに、府民サービス等改革検討委員会における意見も参考として、施設の課題・問題点等を洗い出し、総合的な判断により「見直すべき施設」、「改善を要する施設」及び「当面継続が妥当な施設」に区分した。

また、施設の運営形態について、「代替性」の視点から、「府の直営とするか」、「指定管理者制度又は普通財産の無償貸付（以下「指定管理者制度等」という。）による運営とするか」について検証を行った。

(2) 検証対象施設

今回の検証については、令和7年度に指定管理者等の選定替えを迎える6施設を対象とした。

① 指定管理者制度導入施設

丹後海と星の見える丘公園
堂本印象美術館
府民ホール

② 普通財産無償貸付施設

中丹文化会館
丹後文化会館
長岡京記念文化会館

(3) 検証の視点

今回の検証においては、施設の現状について、「公共性」、「有効性」及び「効率性」の3つの視点から検証を行うとともに、運営形態に関しても「代替性」の視点から検証を行った。

各視点の具体的な内容は次に掲げるとおりである。

1 公共性	①公益性	ア 今日的な視点から、設置目的の意義が低下していないか イ 利用実態が設置目的に即したものとなっているか ウ サービス内容が設置目的に即したものとなっているか
	②必需性	ア 府民の安心・安全の確保等、府民生活を営む上での必要性が高いか イ 府の施策を推進する上での必要性が高いか ウ 法律等により設置が義務付けられているか
2 有効性	①利用度	ア 会議室やホール、競技場など、利用率の状況はどうか イ 入居施設に係る入居率の状況はどうか ウ 過去3年間又は5年間の利用者数の推移はどうか エ 利用者満足の向上に対する取組の状況はどうか
	②互換性	ア 同種・類似の施設が存在するか イ 補助金などの代替施策で対応できるものか
3 効率性	①コスト	ア 利用者1人あたりの府負担コストの状況はどうか イ 経費に占める府費負担割合の状況はどうか
	②将来負担	ア 今後5年以内に大規模改修などの予定はないか
4 代替性	直営とする施設	ア 行政以外にサービスを提供する民間事業者等が存在せず、民間参入の可能性がない施設 イ 施設運営に民間事業者等のノウハウの活用が期待できない施設 ウ 施策を推進するに当たって、府が自ら運営主体として関与しなければならない施設

(4) 検証作業

上記(3)に掲げる検証の視点に基づき、検証対象施設に係る運営状況、利用状況のデータ(書面)による検証に加え、現地調査及び所管部局からの説明の聴取、質疑を実施した上で、府民サービス等改革検討委員会の各委員より意見を聴取した。

各施設の課題・問題点等を洗い出した上で、これらの意見を参考とし、施設のあり方についての検証結果をまとめた。

《参考：府民サービス等改革検討委員会委員名簿》

氏名	職 業 等
石原 俊彦	関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科 教授 ※委員長
奥野 美奈子	(株)京都フィナンシャルグループ 取締役
辻本 尚子	(株)みやこ不動産鑑定所 代表取締役
鳥居 聡	(株)スターナビゲーション・アソシエイツ 代表取締役
山本 晶子	武庫川女子大学 共通教育部 教授

(五十音順、敬称略)

3 検証の結果

(総括)

今回の検証の結果、対象施設について、次に掲げる区分に分類を行った。

- | | | |
|--------------|---------|--|
| ① 見直すべき施設 | (該当なし) | |
| ② 改善を要する施設 | (4 施設) | ・ 中丹文化会館
・ 丹後文化会館
・ 長岡京記念文化会館
・ 堂本印象美術館 |
| ③ 当面継続が妥当な施設 | (2 施設) | ・ 丹後海と星の見える丘公園
・ 府民ホール |

(運営形態に係る検証)

施設の運営形態に関する検証結果については、現行の運営形態を継続することが適切と判断した。

(各施設の検証結果)

各施設の検証結果は、以下のとおりである。

1 改善が必要な施設（4施設）

●京都府中丹文化会館（無償貸付）

<p>前回検証結果</p>	<p>要改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の利用実態や近隣の類似施設の状況、老朽化の進行により、今後、施設改修が必要となることから、設置目的や必需性、今後の費用負担、施設移譲も含めて地元市町と検証を進めること。
<p>対応・改善策実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> コロナ後の施設の課題共有や本施設に最もふさわしい設置形態を含めた今後の施設のあり方について、意見交換を行い、継続して検証を実施中。 コロナ禍は利用者数、事業団の使用料収入ともに減少していたが、積極的に営業活動を行い、利用者の確保に努めた。
<p>取組の結果</p>	<p>◇利用者数、事業団の使用料収入について、コロナ禍前の水準に回復傾向にある。</p>
<p>なお残る課題・問題点</p>	<p>◆施設設置後、中丹文化会館は築41年経過しており、建物・設備の老朽化が進行。</p>
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □中丹地域における文化振興の拠点として、また府民の交流の場として文化施設の役割を果たしている。 □一方で、中丹地域には同様の機能を果たす施設が複数存在しており、これらの施設も含めた中丹地域の文化施設のあり方を検討されたい。 □大規模改修等は差し迫った課題であるが、機能維持のみならず、よりマクロな視点での施設のあり方、有効活用を検討されたい。 □今後の施設のあり方について、地元自治体との意見交換を再開されたい。
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>要改善</p> <p><改善方策></p> <p>◎年々改修が必要となる箇所は増加していく中で、今後の施設のあり方や費用負担について、引き続き地元自治体と検討を進めること。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <p>○施設の利用実態や老朽化対策等を踏まえ、今後の会館のあり方について、引き続き地元市町と検討する。</p>

●京都府丹後文化会館（無償貸付）

<p>前回検証結果</p>	<p>要改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の設置以降、市町村合併により旧6町が1市に合併されたこと、施設の利用者が市内在住者中心になっていること、老朽化の進行により、今後、施設改修が必要となることから、設置目的や必需性、今後の費用負担、施設移譲も含めて地元市町と検証を進めること。
<p>対応・改善策実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度以降、京丹後市が開催する京丹後市文化芸術振興審議会に参画するなど、今後の施設のあり方を含む文化行政施策について継続して議論を行い、検証を実施中。 コロナ禍は利用者数、事業団の使用料収入ともに減少していたが、積極的に営業活動を行い、利用者の確保に努めた。
<p>取組の結果</p>	<p>◇利用者数、事業団の使用料収入について、コロナ禍前の水準に回復傾向にある。</p>
<p>なお残る課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆利用者数は、ピーク時（昭和61年度）から半減。 ◆施設の利用者は、特定の自治体（京丹後市）の住民中心の利用となっている状況。 ◆施設設置後44年経過しており、建物・設備の老朽化が進行。
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □丹後地域における市民交流の場として会館の役割を果たしていくため、府と地元自治体との協議を継続されたい。 □府内全域の均衡の取れた文化芸術サービスの提供を想定した場合、府として一定の水準を維持していく必要があり、地元自治体と連携した有効性と効率性の向上について検討されたい。 □稼働率が低く、利用度等の向上については今後更なる工夫が必要。 □大規模修繕は喫緊の課題。今後の改修費用の負担について検討を要する。
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>要改善</p> <p><改善方策></p> <p>◎年々改修が必要となる箇所は増加していく中で、今後の施設のあり方や費用負担について、引き続き地元自治体と検討を進めること。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <p>○施設の利用実態や老朽化対策等を踏まえ、今後の会館のあり方について、引き続き地元市町と検討する。</p>

●京都府長岡京記念文化会館（無償貸付）

<p>前回検証結果</p>	<p>要改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用実態や近隣の類似施設の状況、老朽化の進行により、今後、施設改修が必要となることから、設置目的や必需性、今後の費用負担、施設移譲も含めて地元市町と検証を進めること。
<p>対応・改善策実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ後の施設の課題共有や本施設に最もふさわしい設置形態を含めた今後の施設のあり方について、意見交換を行い、継続して検証を実施中。 ・コロナ禍は利用者数、事業団の使用料収入ともに減少していたが、積極的に営業活動を行い、利用者の確保に努めた。
<p>取組の結果</p>	<p>◇利用者数、事業団の使用料収入について、コロナ禍前の水準に回復傾向にある。</p>
<p>なお残る課題・問題点</p>	<p>◆施設設置後、長岡京記念文化会館は築36年経過しており、建物・設備の老朽化が進行。</p>
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □乙訓地域における文化振興拠点として会館の役割を果たしていくため、府と地元自治体との協議を継続されたい。 □大規模修繕は喫緊の課題。今後の改修費用の負担について検討を要する。 □交通の便も良く、長岡京市以外の利用者も多いことから、広域的な観点でこの地域でのランドマークとなるような施設のあり方を検討されたい。
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>要改善</p> <p><改善方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎年々改修が必要となる箇所は増加していく中で、今後の施設のあり方や費用負担について、引き続き地元自治体と検討を進めること。 <hr/> <p><今後の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ○施設の利用実態や老朽化対策等を踏まえ、今後の会館のあり方について、引き続き地元市町と検討する。

●京都府立堂本印象美術館（指定管理者）

<p>前回検証結果</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堂本印象の価値を高める取組、利用実態や採算性を踏まえた運営マネジメントにより、幅広い層の利用を促進する取組を行うこと。
<p>対応・改善策実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の諸団体と連携して地域の振興と活性化を図ることで、立地する地域における美術館の存在価値を高める取り組みを実施中。 ・堂本作品以外の作品展示にも積極的に取り組んでおり、幅広い層の利用を促進。 ・隣接する立命館大学と連携して美術館の利活用を共同で検討し、大学のクラブによる展示やイベント利用を促進するとともに、グッズの制作、広告作成などにも取り組み、新たな美術館利用者の創出に努めている。
<p>取組の結果</p>	<p>◇コロナ禍で減少した利用者数、利用料金収入は回復傾向にある。</p>
<p>なお残る課題・問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆有料利用者の更なる増加が必要（利用者の多くは無料の65歳以上）。 ◆リニューアル後、継続した集客の手法の検討が必要。 新たに取り込む利用者（大学生・一般観光客・外国人）の集客に向けた取組等が必要。
<p>府民サービス等改革検討委員会による改善意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □外国人を含む観光客を取り込むことを検討されたい。 □堂本印象ブランドを高めるようなグッズ作成や広報を引き続き強化すべき。 □入館料の見直しや貸館としての活用などを含めた新たな収入確保対策が必要。 □展示品の撮影許可の緩和や休憩スペース、カフェの併設など、近年、美術館では当たり前になってきていることについて実施を検討されたい。
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>要改善</p> <p><改善方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎引き続き、堂本印象の価値を高めながら、貸館利用、写真撮影可能な作品展示など、より柔軟な施設運営を行うこと。 ◎外国人を含む観光客を取り込む工夫や認知度向上に繋がる取組を推進すること。 <hr/> <p><今後の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様な主体と連携しながら、堂本印象美術館の魅力向上を図り、利用促進や収益確保に向けた取組を推進する。

2 当面継続が妥当な施設（2施設）

●京都府立丹後海と星の見える丘公園（指定管理者）

<p>前回検証結果</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに関する発信や観光資源との連携等、施設の存在や設置意義をアピールするための取組を行い、認知度の向上を図ること。 ・引き続き、利用者数の拡大に向けた自主事業の実施等、利用促進の取組を行うこと。
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに作成した団体向けの利用案内に、公園の運営を通して、「SDGs」の達成に向けて取り組む旨を盛り込んだ。また、営業活動も積極的に行い、京都府南部の学校等へ認知度・利用率向上に努めた。 ・体験プログラムについては、海ゴミをはじめとした環境問題に関する講義をオンラインで展開し、SDGsについて考える機会を提供。 ・また、宿泊においても、旬のものや地のものにこだわった身体に優しい料理や、地域の方から譲り受けた古道具をリメイクした本棚など、公園の運営の中での「SDGs」を意識しているとともに、来園者への気付きを促している。 ・京都教育大学の学生と周辺マップを作成し、観光資源であるジオパークの紹介及びSDGsの理解促進を目的としてポスター掲示とホームページの作成を行った。 ・コロナ禍をきっかけに、個人が年間を通じて利用でき、大人も楽しむことを提案する「けとはれのあわい」をブランディングした。
<p>取組の結果</p>	<p>◇宿泊のブランディングにより、これまで利用の少なかった若年層の女子グループや一人旅などの利用が少しずつ見られるようになってきた。</p>
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ポストコロナを踏まえ、家族・個人向けの宿泊に力を入れた結果、利用料金収入はコロナ前程度に回復しているが、目標値までは達していない。 ◆宿泊施設の南丹・中丹管内の利用者組数が少ない。 ◆学校向けの公園であるイメージや、宿泊施設があることを知らない人が多いことが考えられるため、引き続き施設PRをしていく必要がある。

<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<p>□指定管理者による運営は工夫が見られ、環境先進地京都の学習施設として、また京都府北部の広域公園としての役割を果たしている。</p> <p>□今後一層の利用促進を進め、施設の有効性と効率性を高めてゆくためには、地元自治体との積極的な連携をすべき。</p> <p>□知名度の向上のための広報の拡充及び外国人を含め府民以外の利用者を増やすための更なる工夫を期待する。</p> <p>□団体利用として、小中学校の学年単位より規模の小さい学童保育や大学ゼミ、企業研修のレクリエーション利用などを想定した広報活動も必要と考える。</p>
<p>京都府の検証結果及び対応方向</p>	<p>継続</p> <p><改善方策></p> <p>◎外国人観光客を含め府民以外の利用向上も図りながら、認知度の向上を促進すること。</p> <p>◎施設の有効性と効率性を高めていくために、地元自治体と積極的な連携を進めること。</p> <hr/> <p><今後の対応></p> <p>○これまで以上に府民利用を促進するとともに、府外を含めた利用者に向けた情報発信等を積極的に行う。</p> <p>○施設規模に合う利用者（大学ゼミ、企業研修など）への積極的な広報活動を行う。</p> <p>○地元自治体と連携し、地域の交流拠点としての利活用を図る。</p>

●京都府立府民ホール（指定管理者）

<p>前回検証結果</p>	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術会館との関係性を基軸においた本施設のあり方について検討を行うこと。 ・施設の機能と活用方法の改善を図り、高いクオリティのホールとしての施設の魅力の向上を図ること。
<p>対応・改善策 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・府民ホール、文化芸術会館の両施設の特性を踏まえ、府民ホールにおいては、一層魅力ある音楽公演に取り組み、利用者数の増化を図っている。 ・新たな取り組みとしては、公募により子ども達に歌うこと踊ることの楽しさを知ってもらう創作音楽劇や、通常のコンサートでは入館をお断りしている未就学児のためのコンサート、子育てに追われて自分の時間が取れない子育て世代に少しでもリフレッシュしてもらえるコンサートを実施 ・自在に変形できる舞台や音響の良さなど機能を最大限に活かせるよう、主催者や演者などの意見や提案を積極的に取り入れることにより、魅力ある演出を実施。 ・令和6年1月～8月にかけて、特定天井の耐震化及び音響・照明設備の更新。
<p>取組の結果</p>	<p>◇利用者数、利用料金収入について、コロナ禍前の水準に回復傾向にある。</p>
<p>なお残る課題・ 問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆施設・設備の老朽化が進行 ◆利用者の年齢層が高い
<p>府民サービス等 改革検討委員会 による改善意見 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> □場所的優位性・芸術知見を深めるコンテンツ等、京都府の文化芸術活動の場として文化施設の役割を果たしている。 □外国人観光客の取り込み等、利用度の向上については今後の更なる工夫を期待。 □公共性をより向上させるために、レストランやカフェなどといった劇場以外の周辺施設の充実を図ることも課題。 □京都府を代表する文化施設としての品格を保つイメージ戦略が必要な施設。

<p>京都府の検証結果 及び対応方向</p>	<p style="text-align: center;">継 続</p> <p><改善方策></p> <p>◎外国人観光客の取り込み等、利用度の向上について更なる取組を推進すること。</p> <p>◎品格のあるホールとしての魅力向上を図り、施設全体の充実を図ること。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p><今後の対応></p> <p>○品格あるホールとしてのブランドイメージを守りながら、予約のない日の施設の活用方法や、空きスペースの柔軟な活用などを検討し、より多くの人々に開かれたホールとして様々な活性化を図る。</p>
----------------------------	---